

ウムチョ ムイーザ通信

No. 49

ルワンダ語で「良い文化学園」の意味を表します。

～ルワンダで教育を考える～

NPO法人ルワンダの教育を考える会
理事長 永遠瑠マリールイズ



「ルワンダの教育を考える会」をいつもサポートくださっている皆様、ありがとうございます。日本で雪が多かったようにルワンダでも雨が多く、気候変動だという報道が流れていました。

現在2月7日から4月30日まで、ルワンダに長期滞在させていただいています。何が課題か現地での活動をとおして見えてきたことをご報告いたします。

さて、昨年11月にウムチョムイーザ学園は、卒業式を終え31人が卒業することが出来ました。その中で幼稚園から6年生までを過ごした2人が小学校卒業時に行われる国家試験を優秀な成績で卒業することができました。ルワンダ共和国で一番優秀な女子中・高等学校へ進学しました。この学校から卒業した女性には、ルワンダを支える要人が多く卒業しています。そして1月からは1学期が始まり新入生を迎え現在全校生260人が学んでいます。

昨年に引き続き、NTTドコモ様よりご支援を頂いて建設したグラウンドにて運動会を開催し、その後「ウムチョムイーザサッカークラブ」を立ち上げる運びとなりました。ウムチョムイーザの子ども達だけではなく、周辺地域の子ども達が参加しサッカーを楽しんでいます。将来ルワンダの代表選手が生まれることを夢見て、福島県伊達市保原町のロータリークラブ会員様から届いたユニフォームを手渡しました。



学園から地域へ広める小学校教員の算数指導力向上プロジェクト（JICA受託事業）も2年目に入りキミロンコ地区に態勢を整えている最中です。キミロンコ地区の他校からも大きな期待を寄せられており公立・私立に関わらず地域で教師の資質向上のため、協力して有効な情報交換ができることでしょう。



キミロンコ地区での給食支援プロジェクトに関してキミロンコ1、キミロンコ2両校に於いて生徒の成績に向上が見られ栄養摂取が学習に及ぼす影響を実感しています。校長先生からは、直接お礼のお言葉を頂きました。

また、前回の通信でお伝えしたようにギチュンビ市にある貧困地区ミヨベへの食料支援が始まって半年が経ちました。本当に嬉しそうにおかゆや給食を食べる子どもたちの姿を毎回



暖かく見守っています。1月29日より望月優子会員が「ReadyFor様」よりインターネットを通して資金調達をお願いしましたプロジェクトにご寄付頂いた皆様にもこの場をお借りして心より御礼申し上げます。





NPO法人ルワンダの教育を考える会ルワンダ事務所からの報告

ルワンダ支援の会計報告

* 2017 / 12 / 31 現在時価換算による

期間：2017年1月～12月

単位：円

	ADESOC	キミロンコⅠ	キミロンコⅡ	ミヨベ	算数指導	健康診断	グラウンド整備	R事務所	計
1月					5,909	19,698		28,326	53,933
2月		173,343	96,521			19,698		76,602	366,164
3月					148,117	234,631		130,850	513,598
4月				56,489	104,623	105,122		208,583	474,817
5月				9,547	163,796	19,698	23,638	203,634	420,313
6月				26,724	109,889	34,143		276,814	447,570
7月		173,343	96,521	178,189	226,922	19,698		910,431	1,605,104
8月	816,495			156,114	66,225	19,698	1,443,910	636,896	3,139,338
9月				118,609	159,778	204,417	674,682	443,172	1,600,658
10月				194,525	138,484	42,548	894,263	193,094	1,462,914
11月	607,039	173,343	110,309	237,284	167,040	19,698	220,516	190,109	1,725,338
12月				102,450	40,263	19,698		234,759	397,170
計	1,423,534	520,029	303,351	1,079,931	1,331,046	758,747	3,257,009	3,533,270	12,206,917

(前回のデータの一部に集計相違がありました)

※ 日本の円をルワンダへ送金すると、日々金額が変動するので、報告額を単純に比較できないので、おおよその金の動きとしてご理解願います。今回は 100 ルワンダフラン≒13.13 円で表記します。

1 ADESOC(ウムチョ ムィーザ学園)

2 キミロンコⅠ

3 キミロンコⅡ

キミロンコ地区の中学校で貧しい家庭の子ども達に出している給食費



ウムチョ ムィーザ学園



キミロンコの給食

4 ミヨベ

ギチュンビ地区ミヨベの昼食費

5 算数指導

校内研修のための費用

6 健康診断

7 グラウンド整備

ウムチョ ムィーザ学園のグラウンド整備



ミヨベの昼食



8 ルワンダ事務所



ウムチョ ムィーザ学園



サッカーのユニフォーム贈呈



NPO法人ルワンダの教育を考える会ルワンダ事務所からの報告

考える会現地事務所 インターン 豊田工業大学工学部 十文字小夏 より



ルワンダ事務所のメンバーと

こんにちは。今年1月の初めより、NPO ルワンダの教育を考える会のルワンダ事務所にて約1か月半インターンをさせていただいていた、十文字小夏です。簡単にではありますが、ルワンダでの事をここで皆様に報告させていただきます。

まず、現地での生活面については、代表のマリールイズさんのお姉さんのお宅にホームステイをさせていただき、現地の方々と同じように生活することで、国民性や文化をより

深く知ることができました。とにかくご家族、さらにご近所の方々も皆親切で温かく、かけがえのない経験になりました。毎朝家から事務所へ行く途中に何人も（もちろん知らない人です！）が挨拶してくれたこともあり、本当にルワンダの人々が好きになりました。また、図らずも、お葬式や結婚式に出席させていただく機会もありました。たとえ血が繋がっていなくても、誰かの死には心から悲しみ、喜ばしいことは皆で喜び、誰とでも一緒に食卓を囲む。そんなルワンダ人と接し、渡航前よりさらに約20年前の出来事が信じられなくなりました。

滞在中、NPOが支援をしている、北部ギチュンビ市ミヨベ町を何度か訪問する機会がありました。そこでは“支援をする”ということの本質についてとても考えさせられました。ミヨベ以外でも、自分だけではどうにもできない現実を目の当たりにし、無力感も感じました。また、短い期間の中で私がNPOのために何かできたかということ、正直できてはいません。しかし、私がルワンダで見てきたことや感じたこと、経験したことを、これからたくさんの方々（特に若者）に伝えていくことが使命であると思っています。



本当に愛情深く接してくれたホストマザー(左)



ウムチョムイーザの子ども達から元気をもらいました！

私は今回、文部科学省主催のトビタテ！留学JAPANという官民共同プロジェクトから奨学金を頂き、渡航が実現しました。今後、大学やトビタテでの報告会等を通じて積極的に同世代に“アフリカ・ルワンダの今”をお話ししていきます。私が今回のインターンの経験を将来何らかの形で生かし、また、私を通じて少しでも多くの方がルワンダやアフリカに興味をもってくれたら、約1か月半の滞在は意味のあるものになると思っています

すし、そうなるよう、今後ともさらに精進していきます。

最後に、現地でお世話になった皆様と、このような機会を下さった代表のマリールイズさんに改めて感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

2018年3月6日



小学校教員の算数指導力向上プロジェクト: 校内研究授業が開催されました!

ルワンダの子ども達は算数が苦手で、小学校卒業試験でも、ルワンダ語、社会、理科、算数、英語の5教科のなかで算数が一番成績が悪いという現状があります。こうした問題を解決するため2016年11月から、JICA草の根事業として、先生方の研修プロジェクトが開始されました。日本から理数科教育専門家廣瀬桂子氏を数回派遣し、現地のコンサルタントと連携しウムチョムイーザ学園の先生を対象にこれまで33回の校内研修(SBI)を重ねてきました。

2017年11月18日、これまでの研修成果を実際の授業で実践する校内研究授業が行われました。研究授業とは、先生方が授業案に基づく授業を公開し、授業後参観した先生方が授業を行った先生を交え検討会を行い、授業の内容について分析評価し、授業の質の改善を図ることが目的で、日本の学校現場で広く取り組まれています。

当日は小学2年と4年のクラスで授業研究を行いました。2年生の授業では5の段の掛け算をマスターすること、4年生は分母が違う分数を同価な分数を用いて計算できるようになることです。

2年生の先生が4の段までの掛け算を復習の後、5本で1房のバナナを準備しました。バナナを4人の生徒に1房ずつ持ってきてもらい、全部で何本?次はペットボトルのキャップを5個ずつの組を作り何組かのキャップ数を数える問題です。グループで作業を行い足し算より掛け算を使った方が簡単に計算できることを生徒自らが見つけました。



4年生の先生は、分母が同じ分数の足し算を復習したあと、折り紙を使って分母が異なる $1/2 + 1/4$ の問題を解くよう生徒に指示しました。折り紙を半分と $1/4$ の大きさに切り、黒板に貼られた正方形のなかに切った折り紙を貼り合わせ答えの $3/4$ を導きました。これを計算で出すためには同価の分数を使う必要があることを理解しました。今回授業で行った掛け算・分数の2つの分野は算数の

基本的な知識ですが、その概念や仕組みを理解するのは難しく時間がかかります。今回の授業では生徒が理解しやすいよう教材にも様々な工夫がみられました。そのあと開催された検討会では、良かった点、改善点を各先生が付箋に書き込み、感想を述べあい参加者で共有しました。

実施後のアンケートから「他の先生と一緒に授業の準備をすることで指導案の書き方、授業の深め方などを学んだ」「他の先生の授業を見ることは、授業の進め方等自分の授業の参考になる」また授業をした先生からは「他の先生から自分の授業について出された意見を気持ちよく受け入れることができとても参考になった」など研究授業の経験をこれからの授業に生かしたいとの声が多く寄せられました。2018年はこれまでの研修を更にキミロンコ地区内の全小学校に広める活動として、キミロンコ地区研修を予定しています。

[畑中直人氏(学生インターン) レポートもとに阿部貞夫編集]



参加者が授業の良かった点、改善点を書いた付箋を貼り付け感想を述べた



今日の研究授業、無事終了!

地球上のすべての人たちが自らの力でしあわせに フェリシモ 地球村の基金報告

プロジェクト名 ルワンダ子どもの健康プログラム

実施場所 ルワンダ共和国 キガリ市

実施期間 2017年1月～12月



プロジェクトの進捗状況

1. 小学校(ウムチョムイーザ学園)での集団健康診断(集団健診) 定着

過去に実施した健康診断では、1年目に健診をした子ども達に病気がみつき、2年目は、病気の見つかった子ども達を各医療施設(診察・治療をしてもらえる病院)へ紹介し治療をすることができました。3年目の今年も、新学期が始まった2月6～8日の3日間、新入生の35名の子どもを診断しました。その結果、虫歯2人、耳や眼の病気3人、インフルエンザ1人など、計8人に健康上の問題がみつかりました。さらに、衛生教育の一環とした性教育や青少年へのリプロダクティブ・ヘルス教育(※性と生殖に関する健康・権利を意味する)を行っています。

2. 集団健康診断の意義を広めるセミナー開催

このプロジェクトは、カリオペ医師を中心に、AMDA(岡山県)、ルワンダの大学生、ギトウェ医科大学の医学生、保護者、キミロンコ地区の地域指導者を集め、集団健康診断のセミナー第一弾を2月21日に学園で開催しました。現在行っている集団健診の進行状況や、成果と実際の成功事例を共有することで、保護者だけではなく地元の指導者、周辺の学校などへも学校保健プログラムの円滑な実施と拡大に向けて取り組むことができました。また、9月に行う集団健診を事前にお知らせすることへもつなげることができました。

現地の様子、声

学校に常駐の看護師をおき、毎日保健室で子ども達の健康状態をフォローアップし、早期治療や症状の経過、そして予防をどのようにするかなど、子どもだけではなく、保護者へも通達などをしつづけている。また、前年に治療をした子ども達のその後の経過を看護師がみながら、また各家庭へ訪問看護を行っています。そして、集団健診の際に地元の医学生や学生団体と協力し連携することで、彼らが実際に学校医療の現状を学び、今後の活動に活かす場として、今後もこの取り組みを継続していこうと考えています。また、学園へ通う子どもだけではなく、学園の周辺地域の住民も利用できる1つの「学校クリニックの施設」として機能させてほしいなどと声が上がっています。



支援者へのメッセージ

ルワンダ子どもの健康プログラムがはじまり3年目を迎えることができました。集団健診によって病気の見つかった子どもや、学校でケガをして治療に保健室へくる子ども、その子ども達が回復し元気になった姿を見ると、少しずつではありますが、この健康プロジェクトの役割(成果)が形となってきていることにとっても嬉しく思います。なにより、ルワンダの子ども達のために、皆様からの多大なご支援、ご協力、心より感謝いたします。

学校における集団健康診断や、衛生教育に関する知識や重要性をもっと多くの人達に広めていけるよう、今後も一丸となって努力してまいります。今後とも皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

【ルワンダ写真展&青年海外協力隊員帰国報告会 2018・1・4.5.6.8】

今年も、当会のイベントは、ルワンダ写真展からスタートしました。昨年と同じくチェンバ大町にて開催いたしました。2017年のルワンダ現地で撮られたたくさんの笑顔の子どもたちの写真や、ルワンダで初めて開催された運動会の写真、そして新たな取り組みとして支援をスタートした最貧困地区のギチュンビ市(ミヨベ)の写真。また、国内の活動報告として、各地のイベントでのルワンダコーヒー・紅茶を販売している様子や、全国の皆さんからいただいていたご支援・ご協力がどのように現地に届けられているかなど、会場に模造紙を作って紹介するコーナー、また例年海の日に行っているルワンダフルサマーの様子の写真など、今年も多くの写真を会場に展示させていただきました。そして、今年も、開催期間中に会場でしか味わえない、当会の会員が手づくりをした大好評のルワンダのピーナッツを使って作ったクッキーを食べながら、ルワンダコーヒー・紅茶や、ルワンダの民族衣装(ギテンゲ)を使って作った雑貨などを、来ていただいた皆様に喜んでもらった4日間となりました。1月6日(土)には、JICA 青年海外協力隊員 OGの佐々木 暁(ささきあき)さんをゲストにむかえ帰国報告会が行われました。ウムチョムイーザ学園の幼稚園で2年間現地の子ども達や先生方と過ごした沢山のエピソードを披露してくださいました。多くの方々に来ていただき、大盛況で1年のスタートをきることができました。



『今年も NPO 法人ルワンダの教育を考える会一同をどうぞよろしくお願いいたします。』

【ウムワカムシャムヒレ ～新年会報告～ 2018・1・14】



今年は、新年会開催前から多くの方々の希望の声が集まり、おかげさまで満員御礼ができました!!当日は、福島市内にあるM's コミュニティー(ママ com)から多くの親子さんが参加してくださったり、仙台白百合学園高校・桜の聖母学院高校の生徒さんなど、例年に比べて若い方々の参加も多くあり、とーってもにぎやかで楽しい時間を皆様と過ごすことができました。恒例のルワンダ料理づくりから始まり、何度も参加いただいている当会の会員のメンバーを筆頭に、初めて参加したメンバーへも優しくジャガイモの皮むきや、鶏肉を油で、炒めたり、ジャガイモを揚げたり・・・そして、目玉のルワンダ風お野菜のたくさん入ったオムレツをマリールイズが調理している場面は、調理室中が大歓声となりました。ルワンダ料理は、味付けはシンプルなお塩のみですが、料理が出来上がるまでに大変手間がかかります、ですが皆さんそれぞれ協力して作業をすすめることができましたおかげで、お昼頃には、出来上がった料理を皆さんで食べることができました。新年会に参加いただいた方々の今年の目標や、参加してみた感想など1人1人がお話しする時間もあり、その日会場で出会った縁と、今年のNPO 法人ルワンダの教育を考える会がどのような活動やイベントがあるかなどの紹介をして締めることができました。

「来年もまた来ます!」や「お家に帰ったらルワンダ料理作りに挑戦してみます!」などといった嬉しい声が聞けたこと、とっても嬉しかったです。

ムラコゼカーネ(^^)♪♪





「ルワンダを訪ねて」

新潟大学大学院 修士2年
中山美智子



私が8日間のルワンダツアーに参加した目的は、新潟でおこなっている学生ボランティアのRWAN-JAの活動を今後さらに充実させるために、自分の目でルワンダの現状を確かめるということです。アフリカを訪れるのは初めての経験なので、自分がどのようなことを感じるかも全く想像が付きませんでした。

ルワンダのジェノサイドの歴史から現在の教育現場、伝統文化まで様々な体験をしました。悲しい歴史から学んで現在は国全体で団結力と強さを感じました。また、若者の人口が増えていることからやはり教育の必要性も強く感じました。考え始めると終わらないくらい課題はあがりますが、それをひとつずつ解決していくことが必要だと思います。このようにルワンダにおける課題を考えると、比較として日本の課題についても改めて考える機会になりました。社会全体で抱える問題は数多くあるけれども、それに目を伏せるのではなくしっかり向き合って、自分にできることは何か考えて実行することが大切なのだと思います。

今回のツアーでは、ルワンダの現状だけではなく、人とのつながりの大切さや温かさを感じる旅となりました。4月から私も社会人になりますが、これからも引き続きルワンダの教育を考える会の応援とRWAN-JAの活動を充実させて、自分にできることを探しながら生きていきます。

「リコーダーから！」

難波和代



2月7日から26日まで、初めてルワンダに行って参りました。ウムチョムイーザ学園で音楽の授業をさせていただき、リコーダーを教えました。生徒さん達はリコーダーを見るのも触るのも初めてで、とても楽しそうな様子で素敵な笑顔を見せてくれました。歌とリズム遊びをした学年もあったのですが、ぶんぶんぶんときらきらぼしを日本語で歌えるようになりました。



学校以外でもリコーダーを聴いていただく機会に恵まれました。

感じたのは、『音楽は国を越えて共有できる』という事でした。讚美歌312番（慈しみ深き〜）を吹くと、一緒に合わせて歌ってくださいました。

貧困地区のミヨベにも行ったのですが、そこは今まで一度も見た事のない環境でした。幼稚園を見学し、おやつの中には穀物などが入っている温かいスープを飲んでいたのですが、いつも充分には食べられていない子たちが、私達に飲んでみる？という様に自分のスープを差し出してくれ、私は胸がいっぱいになりました。

ジェノサイド記念館にも行きましたが、たった24年前の出来事だとは信じられない、壮絶な様子でした。私達の為にご自分の体験談をお話しして下さった方がいらっしゃったのですが、そのお話も辛く悲しいものでした。しかしそう感じる一方で、日本に生まれ育ち、本当の空腹も、無事明日が来るのか不安に思いながら過ごす夜も経験した事の無い私には、この出来事は想像する事でさえ容易ではない、とも感じました。

大変貴重な経験をさせていただきまして、ありがとうございました。

お知らせ

日頃より当会への活動にご理解ご協力をいただき誠にありがとうございます。事務局では、総会に向けて2017年度決算・事業報告の準備作業を行っております。おかげさまで、ルワンダ事務所を拠点に、ウムチョムイーザ学園及び学園の所在地域キミロンコ地区での活動さらに最貧困地域ミヨベにおいての昼食支援活動などを行うことができました。

日本とルワンダの活動など例年に増して活動の幅を広げることが出来ました。総会では、これからの当会の行く道を決める重要な議案もございます。多くの方のご出席を宜しくお願い申し上げます。（事務局）

総 会 — 5月27日（日） 場所：福島市内（予定）

【主な議案】

事業報告・決算・事業計画・予算案・役員改選
これからの活動に関わる議案審議を予定しております。

当会発展のために多くの御意見をお寄せ下さい。

☆各種振替口座番号のご案内です！☆

会費振込・寄付・募金

郵便振替口座：02290-0-97126

加入者名：NPO法人 ルワンダの教育を考える会

【ゆうちょ口座自動振込み寄付】 月一口500円から

ホームページ掲載 目標100名まで継続して募集します。現在56名登録

事務局では、事務局スタッフ及び各種イベント開催時、お手伝いくださる方を随時募集しています。一緒に楽しみませんか。連絡をお待ちしています。

HELP

—編集後記—

福島第一原発事故の収束はまだまだ見通せず、震災から8年目帰還困難区域はいまだにバリケードの中で家が朽ち果てています。復興できるところから、やれるところから
心を前へ！

T.S



NPO法人ルワンダの教育を考える会

理事長 永遠瑠マリルイズ

〒960-8036

福島県福島市新町8-21

TEL:024-563-6334 FAX:024-563-6335

ホームページ：<http://www.rwanda-npo.org>

福島mail :info@rwanda-npo.org